

取引所のグランドデザイン

日本取引所グループの取組みと現状(2015年1月末)

アジアで最も選ばれる市場

新しい日本株市場の創造

- 新たな株価指数の開発
- コーポレートガバナンスの改善
- Arrowhead リニューアル
- 呼値単位・取引時間帯の見直し
- 市場機能強化に向けた政策提言
- ETF・J-REITの拡大
- IPO促進を通じて企業成長を支援

JPX日経インデックス400利用拡大への取組み

コーポレートガバナンス・コード(2014年12月原案公表)への積極参加

取引の安全性向上や新機能で2015年9月24日にリニューアル予定

呼値単位の細分化はTOPIX100銘柄まで、取引時間は当面現状

東京国際金融センター実現に向けての提言

ETF168銘柄、ETN27銘柄、J-REIT50銘柄に増加しファイナンス好調

IPO数は市場全体で77社に増加。今年も増加が続く予想

デリバティブ市場の拡大

- コモディティ・デリバティブ分野への進出
- 商品ラインナップの拡充
- 統合を機としたダイナミックな制度改善
- 次世代デリバティブシステムの検討

東京商品取引所への次期デリバティブシステム等のサービス提供で合意

JPX日経インデックス400先物、OTC市場の受け皿となる商品開発

取引参加者資格の緩和 等

開発ベンダーは(NASDAQ OMX グループとNTTデータ)に決定。新システム

稼働時の商品や制度要綱は2015年度中に決定へ

取引所ビジネス領域の拡大

- OTCデリバティブ清算の利用拡大
- 上場インフラの実現
- プロボンド市場の活用・振興

円金利スワップ取引拡大へ。2015年度に外貨建金利スワップも導入予定

2015年度に第一号案件の上場を目指す

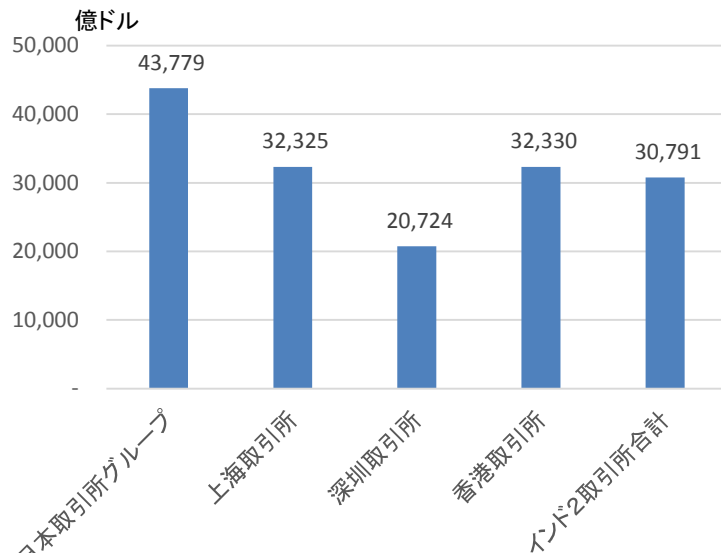
アジアなどのソブリン債プログラムの上場を推進

※上記は日本取引所グループ中期経営計画(2013~2015年度)より

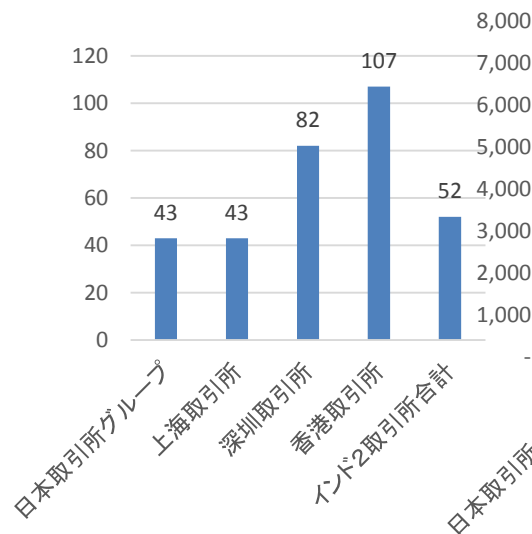
株式会社資本市場研究所きずな 作成

アジアの中での日本取引所

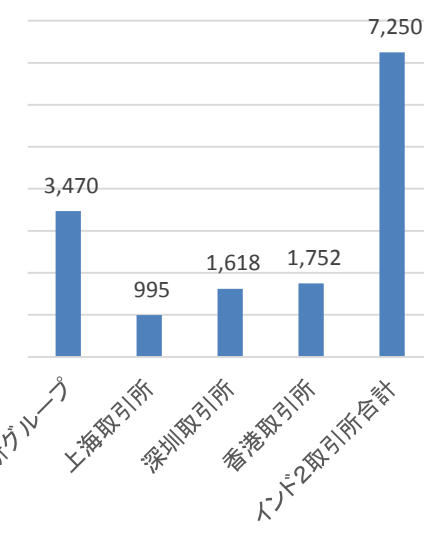
上場株式の時価総額(2014年12月末)



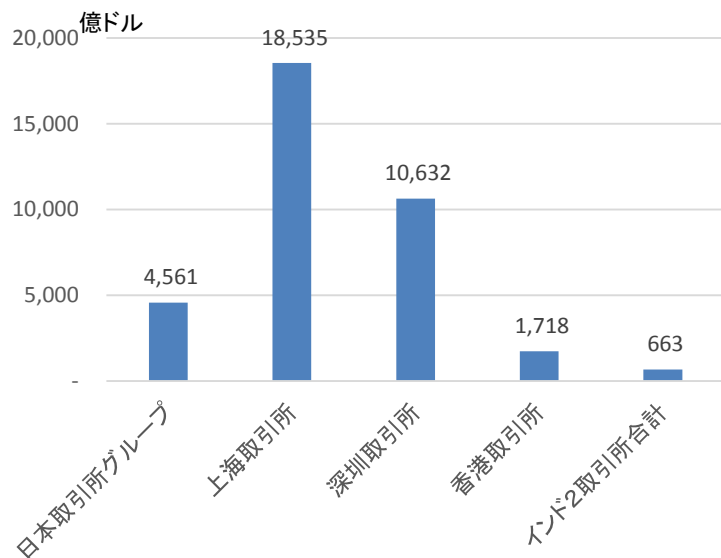
2014年IPO(新規株式公開数)



上場企業数(2014年12月末)



上場株式の取引金額(2014年12月月間)



デリバティブ取引高世界ランキング2013年

順位	取引所名
1	CME グループ(米)
2	インターコンチネンタル取引所(米)
3	ユーレックス(独)
9	韓国取引所 韓国
10	マルチ商品取引所 インド
14	日本取引所グループ
15	香港取引所 香港
23	SGX グループ シンガポール
24	東京金融取引所 日本

※上記順位は、Futures Industry Associationより

※他は、世界取引所連盟月間統計資料より

取引所の課題

取引機能面

HFT(高頻度取引)への
対応

呼値細分化・取引時間

制度面

新興市場等の市場統合
と市場区分

プロ向け市場の在り方

総合取引所に向けた
取引参加制度

上場日本企業の企業価値向上に向けて

コーポレートガバナンス・
コードの実効性

エクイティファイナンスの
プリンシプル

IRやディスクロージャー
などの表彰制度

取引拡大に向けて

デリバティブ取引
増加策(機関投資家)

デリバティブ取引
増加策(個人)

アナリストカバー問題